

健康教育における児童の気づきから目標設定への質的研究

○福原早紀^{1,2)}, 福原 稔²⁾¹⁾フクハラ歯科医院, ²⁾NPO 法人関西ウエルビーイングクラブ

要約：2次元マッピング法を使った健康教育をすることで、行動に対する気づきはあるが、それを自分の考えまで持っていき目標設定に繋げることは難しいということが示唆された。（索引用語：健康教育、2次元マッピング、自己判断）

口腔衛生会誌 57 (4), 2007

目的：

健康の大切さに気づき、歯磨きや食生活などの保健行動を改善すべき目標設定へと繋がられた要因について検討したので報告する。

対象・方法：

大阪府S小学校3年77名を対象に、守山らが開発した2次元マッピング法を使って健康教育を行った。2次元マッピング法については省略。A「カードをおいて私が気づいたことは」・B「友達と話してみよう。そこで私が気づいたことは」の質問に記述させた。そして保健行動を振り返ることで、明日からできる保健行動の目標を1つ立て、設定用紙に記述させた。できたマップを家庭に持ち帰り、C「お家の人と話してみよう」という質問に記述させた。A・Bの自記式質問用紙に記述した42名分の文章を守山らがカテゴリー化したカテゴリーに分類し、分析した。

Aという質問に記述した文章を、歯に対してよい行動や悪い行動をしていたという気づきは、「自分の行動に対する気づき」と捉え、歯は大切だという気づきは「自分の行動に対する自分の考え」と捉え、この2つのカテゴリーに分類した。Bという質問に記述した文章を、1) 友達の行動の評価 2) 友達と自分の行動の違い 3) 自分の行動の強化 4) 模倣 5) 発見 6) 共感 7) 競争の7つのカテゴリーにまず分類した。そして1) 2) は、「行動の違いに対する気づき」と捉え、次に3) 4) 5) 6) 7) は、「友達と自分との行動の違いに対する自分の考え」と捉えて、この2つのカテゴリーに分類した。最後に目標設定に繋がられたかどうかを分析した。Aの質問の文章を読み「自分の行動に対する気づき」から「自分の行動に対する自分の考え」へと繋がり、Bの質問の文章を読んで「行動の違いに対する気づき」から「行動の違いに対する自分の考え」

へと繋がり、児童の言葉が目標設定に出てくれば繋がれたと判断した。

結果：

目標に繋がられた児童は12名(28.6%)、そのうち自己判断型6名・モデリング判断型6名であった。繋がられなかった児童は30名(71.4%)、そのうちモデリング判断型6名・モデリング観察型14名・無関心型10名であった。

考察：

自己観察することで行動に対する気づきはあるが、それを自分の考えまで持っていくのが難しい。このことから発達段階を考慮して、他者観察することで行動の違いを理解することのほうが、目標設定に繋がやすいと考えられる。また行動の違いを気づくことはできるが、それをイメージ言語化することが難しいということが示唆された。

		カードを置いてみて、私が気づいたこと (自己観察)		友達のマッピングを見て、私が気づいたこと (他者観察)	
		自分の行動に対する 気づき(100%)	自分の行動に 対する自分の 考え(14.4%)	行動の違いに 対する気づき(76.2%)	行動に 対する自分の 考え(42.7%)
繋がれた 12名 (28.6%)	自己判断型 (6名 50.0%)	○	○	○	○
	モデリング判断型 (6名 50.0%)	○	×	○	○
繋がれな かった 30名 (71.4%)	モデリング判断型 (6名 20.0%)	○	×	○	○
	モデリング観察型 (14名 46.7%)	○	×	○	×
	無関心型 (10名 33.3%)	○	×	×	×

表1 健康教育によって、気づき—自己判断—目標設定への要因の分析結果